

共に生きる

東日本大震災現地支援ニュース No.14

2012年12月27日 大会執事活動委員会

*石巻伝道所改修工事報告

東北中会伝道委員会 石巻担当委員 佐々木和雄

10月22日から始まったOPCミッションによる建築ボランティアチームによる石巻伝道所の復旧改修工事は、神様の守りと導きにより、12月13日に終わりました。最終の第4チームメンバーは14日に離日されました。8週間にわたるOPC建築活動は、石巻伝道所の物理的な建物復旧工事ばかりでなく、近隣の方々にも、教会の存在と意識レベルの距離が近づいた素晴らしい証ともなりました。

地震で2階外壁が剥がれ落ち、津波で1階は浸水、へドロに覆われました。一時は建物復旧工事が危ぶまれましたが、OPCの働きかけで4チーム32名の方が石巻へ派遣され、新築同然の石巻伝道所復旧となりました。基本的に建築間取りは以前の通りですが、会堂は天井吹き抜けになって広い空間に、教会トイレは車イス対応の幅広扉へ、玄関には簡易移動式のスロープが準備されました。また、天井・壁・床にはふんだんに断熱材が施され、改善された住環境となりました。白津先生の提案から、講壇後壁には、以前より使用されていたマホガニー材の板が貼られ、落ち着いた雰囲気醸し出しています。

牧師館側では台所のキッチンが新調され温もりのある木製キャビネットに。そして、1階の各部屋の扉は、片開き扉から壁内蔵式の引き戸に交換され、部屋の有効スペースが広がりました。

石巻工事期間中のボランティアメンバーの食事は基本的に昼食・夕食は仙台地区教会の女性達による奉仕、食事配送は各教会の有志により行われました。時折、カミングス宣教師の配慮による外食もあり、殊に回転寿司はチームメンバーに喜ばれました。宿泊は第1～第3チームはサクラハウス、第4チームは未完成の石巻伝道所でしたが、二つの施設とも、風呂はシャワーのみで洗濯の設備が無く、非常なご不自由を強いる結果となり申し訳なく思っています。

しかし、アメリカには無い公衆浴場に入ったこと、震度4の地震に見舞われたこと(第4チーム)などの体験は、日本での印象深い思い出となったことでしょう。

12月13日に大会執事活動委員の方々から感謝の意を表すために、石巻に来られ、豊川先生・持田先生から感謝のご挨拶がなされ、白津先生から感謝の言葉がOPCメンバーに語られ、8週間のご奉仕が神様の素晴らしい守りの中にあつたことを共に感謝、喜び合いました。残工事が多少ありますが、私たちが充分対応可能なものです。今後の石巻伝道所の伝道が祝福されますよう共に覚えつつ祈っていきたく思っています。



*のぞみセンター12月の活動報告

仙台カナン教会 大野雅良

1年の終わりが近づくこの季節、クリスマスを迎えられる喜びを感謝します。のぞみセンターは、今年5月5日にオープンして以来、被災地で初めてのクリスマスを迎えようとしています。これまでニュース・レターでご報告させて頂きました通り、多くの方々のお祈りと奉仕によって支えられ、活動を続けて来られた事を改めて感謝します。振り返ってみれば、センターに来られた海外・国内からのボランティアの方々の協力が無ければ、センターの少人数スタッフでは到底出来得なかった事を改めて感謝し、主の御名を讃美します。

12月からは加藤恵美姉がスタッフとして加わり、大きな戦力としてセンター内部の様々な整備に力を発揮しています。バザーの後片付けを終え、この12月は子供達との交流に加えて、近隣の家を訪問し、高齢の方々の話し相手としての活動にも力を入れています。

クリスマス前後に米国CRCから子供達への奉仕をメインにしたボランティア・チーム、及び名古屋岩の上传道所の応援を得て、センターや仮設集会所でイベントを集中させて行う予定を立て、29日を年内活動の最終日としています。

現在、濱田 唯スタッフは空いた時間をセンター近くにご自宅のある老夫婦に付き添っています。このご夫婦も津波の被害を受けた被災者です。ご主人は車椅子の生活をされており、先日、たまたま受けた検診で末期のガンである事が判りました。お二人は大きなショックを受けられつつも、現実を冷静に受け止められ、祈ることを受け入れて下さいました。カミングス主事、高瀬先生、八重樫先生が何度も病室を訪ねられ、12月22日、カミングス主事の依頼により、亙理伝道所の林先生によってご夫婦揃って洗礼を受けられました。ハレルヤ！

その前日には来日している米国リー大学の学生音楽チームが、のぞみセンターでのコンサートを前に入院している病室を訪問し、クリスマス・ソングをアカペラで歌い、ご夫婦は勿論、その場に居合わせた皆が涙して聞き入りました。その後、ナース・ステーションの前でも入院患者の方々に歌を披露し、皆、喜びを持って聞いて下さり、最後には患者の皆さん、医師、看護師の方から大きな拍手と感謝の言葉を頂きました。

皆様、どうかご夫婦のためにお祈り下さい。主にあつて、感謝します。



* 第8回 名古屋岩の上传道所ディアコニア活動計画

(ディアコニア支援室室長 岡本真理)

名古屋岩の上传道所ディアコニア支援室は、下記のような活動を予定しています。お祈り下されば幸いです。奉仕者：岡本室長、岡本委員、三輪委員、北原兄、相馬牧師、吉住兄（豊明）、前田、小川、宮崎、福田、安藤さん（愛知県立芸術大学学生）、須之内氏（一般）、石川和宏長老（カペナントチャペル）13名。

◆12月27日（木曜日） 7時教会出発～18時のぞみセンター到着 打ち合わせ・準備作業

◆28日（金曜日）

9時～亙理旧館仮設訪問（カレンダー、お手紙・味噌煮込みうどん配布）コンサートお誘い

11時～12時 亙理旧館仮設集会室（コンサート・説教）

13時～ 坂元中跡仮設個別訪問（カレンダー、お手紙配布）

13時30分～14時30分 集会室（コンサート・説教）

15時30分～19時 のぞみセンター感謝会（「忘年会」）のぞみセンターのご近所の方々（約25名）をお招きし、スタッフの皆さんとゆっくり食事していただくための奉仕。

（送迎・食事づくり・コンサート・説教・ゲーム）

◆29日（土曜日）

朝～ ・大掃除チーム ・ご近所にお餅（新潟の団体から頂いたもの）を配布するチーム

・ナガワ工業団地仮設個別訪問チーム（カレンダー、お手紙配布）

11時～12時 ナガワ仮設集会室（コンサート・説教） ～ 23時30分 教会到着予定。



* 陸前高田・11月活動報告

チーム陸前高田代表：李 根培

小学校仮設一韓国料理・キンパ作り

この仮設住宅では住民の方々との話し合いが出来ていない仮設です。小林区長さん、村上副会長さんとの関係は極めて良好です。しかし、40世帯の人々とは全く交わりが出来ず、なんとかその壁を破り、会話をし、交わりが出来ないか、祈り求めておりました。金玉基さんのキンパ作りがその壁を破りました。事前に配布した申し込み用紙に15名程の参加者の名が連なっておりました。午前10時となり、婦人方が集まって参りました。河野さんと云う方がケーキを焼いて持参してくださいました。そのケーキと一緒に食べ始めたころ、仮設からの参加者の一人が私たちに対して、「皆さんをご紹介します下さい」と頼まれました。チームの自己紹介が始まりました。「私は日本人ではありません、韓国からの宣教師です-----」、「私は日本人です、-----」笑い、「-----」、と。次は仮設からの参加者の自己紹介となりました。村上訓子、桜田光子、河野仁美、村上せい子、小林タエ子、鈴木信子、河野俊枝、大和田豊子以上の婦人方8名です。チームの女性方とこの仮設の婦人方と共に料理の協同作業が始まりました。

12時過ぎ、料理は出来上がりました。小林区長さんは今日参加の希望の男性方にお声掛けをし、7名の男性方が加わりました。仮設からは計15名、私たち7名、合計22名で、出来上がったキンパを共に食べ始めました。食べながらの話し合いとなりました。小林区長さん、村上文一副会長さん、伊藤安二郎さん、小野寺さん、佐藤さん、-----です。その中には奥様を津波で亡くした方

も居られました。中には船員の方もおられ、アフリカ、南極、-----遠洋の海の話も伺うことが出来ました。

小林区長さんご夫妻や、和裁の専門家、ケーキ焼き、料理の事も、弁も立ち多くの賜物をお持ちの河野さん、ムードメーカーの村上さん-----実に和やかな、豊かな食事の時間となりました。なかなか住民の方々と話し合いが出来なかったこの仮設でしたが、25回目の訪問で、やっと男女15名の方々とこの様に共に料理を作り、共に食べ、和やかに、お話しが出来る様になりました。

「---あなたがたは食べるにしろ、飲むにしろ、何をするにしても、神の栄光を現すためにしなさい。」
(コリントー10章：31節)



* 今年もこの「共に生きる」-東日本大震災現地支援ニュース-をお読み下さり、現地の働きを覚えてお祈りくださり、また様々な活動にご協力いただきましたことを心から感謝いたします。来年からは隔月（偶数月）の配信となります。来年もどうぞよろしくお願いいたします。



<今月の御言葉>

灯りの消えない街。あらゆる情報、あらゆる刺激、言葉が溢れているにも拘わらず、言葉を通じない、心の闇が深まっています。貴重なものを失いつつある閉塞感の中、ベツレヘムの星の光は本当に明るく輝いていたことを、私は想うのです。確かに起きたイエス・キリストの誕生の出来事を。

不思議なことに、クリスマスの光は、夜の深い闇に包まれていました。遙々旅してやって来た東方の博士たちを導いてきたものは、夜空に輝く星でした。最初に救い主誕生の知らせが告げられたのも、夜、野宿をしていた羊飼いたちでした。「闇」の中に、静かに、目立たず、「光」なる神が入って来られました。「初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。・・・命は言の内であった。命は人間を照らす光であった」(ヨハネ1:1~4)。

「メリー・クリスマス」。この「光の出来事(ことば)」が、ありのままに、私たちを明るく照らし出しますように。「光は暗きに照る」(ヨハネ1:5)。

(大会執事活動委員会 西 牧夫)